

## ジャボタベック圏鉄道近代化事業( )



本事業により高架化された路線区間

## 借款概要

承諾額/実行額	13,565百万円/11,375百万円
借款契約調印	1987年12月
借款契約条件	金利3.0%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1993年12月

## 事業概要

ジャボタベック圏随一の幹線である中央線のジャカルタ・コタ駅～マンガライ駅を高架化することによって、道路交通の円滑化を図るとともに、列車速度の向上および鉄道輸送力の増強に寄与するもの。

## 評価結果

ジャボタベック圏を南北に走る中央線のうちジャカルタ・コタ駅～マンガライ駅間（約10km）には、従来ジャカルタ市の中心部を通るため同線を東西に横切る19箇所の踏切があり、列車本数の増加により、いわゆる「開かずの踏切」となり鉄道交通にも大きな障害となる可能性があったが、本事業による鉄道の高架化に伴い、上記の問題が解決することになり、当該地域の道路交通の円滑化に貢献したと考えられる。また踏切における違法横断等により列車の急停車や減速を余儀なくされていたが、本事業により上記問題が解決され、列車速度の向上や運行の効率化が見られる。

運営・維持管理は現在インドネシア鉄道会社（PT.KAI）が行っており、軌道メンテナンスが定期的に行われるシステムは構築されているものの、職員の研修状況、人員充足状況、運営・維持管理予算の手当て状況を含め維持管理体制には持続性の観点から引き続き留意する必要がある。